

第 43 回日本膵切研究会 アンケート調査 「ボーダーライン膵癌に関する
治療方針の実態調査 ならびにボーダーライン膵癌の予後因子の解明」に
対するご協力をお願い

-2011 年-2013 年に当科においてボーダーライン膵癌にて治療を受けられ
た方へ-

研究機関名 三重大学 肝胆膵・移植外科

研究責任者 三重大学 肝胆膵移植外科 助教 加藤宏之

1. 研究の概要

1) 研究の意義

第 43 回日本膵切研究会(東京医科大学主催)のアンケート調査において、参加 164 施設に調査票を送付し、各施設のボーダーライン膵癌に関する治療方針の現状を把握するための実態調査ならびにボーダーライン膵癌における予後因子の解明のための症例集積研究を行います。実態調査によりボーダーライン膵癌における予後因子の解明をすることができます。

2) 研究の目的

癌周囲の血管浸潤の程度により外科的切除が可能かどうか丁度境界線上にある膵癌をボーダーライン膵癌と呼びますがその治療方針は専門施設でも一定ではありません。今回の調査では各施設のボーダーライン膵癌に関する治療方針の現状を把握するため、アンケート調査によって、その実態調査を行うことが目的です。加えてボーダーライン膵癌における予後因子の解明のため、症例集積研究を行います。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

三重大学肝胆膵・移植外科で 2011 年-2013 年に、当科でボーダーライン膵癌にて治療を受けられた方 約 60 人

2) 研究期間

2016 年 6 月 7 日から論文発表まで

3) 研究方法

上述に膵癌と診断された症例を、個人情報が出ることのないように、患者個人を特定できないようにコード化した後に、東京医科大学のデータ集計に登録する。登録データ詳細は下記に示す通りである。

4) 使用する試料の項目

- 1 アンケート調査: ボーダーライン膵癌における各施設の治療方針に対する実態調査
- 2 症例集積研究: 予後因子の解明のための個別患者調査

5) 使用する情報の項目

無再発生存期間, 術前治療方法, 術前治療完遂割合, 術前治療奏効率, CA19-9 値, SUVmax 値, 組織学的抗腫瘍効果, R0 切除率, 術後合併症, 術後下痢発症率, 再入院率, 術後治療完遂割合, 術後治療導入までの期間, 補助化学療法 of 投与期間, 初再発部位 など

6, 7) 情報の保存と保護

本研究に使用した情報は、研究終了後 5 年間保存します。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。この研究はあなたのデータを個人情報とわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

三重大学 肝胆膵移植外科

氏名：加藤宏之

電話：059-232-1111

電話：（平日：9時30分～17時00分）